

## 単元名 音楽ランド(1) (選択教材)八木節

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりを理解するとともに、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 声部同士の関わり合いや全体の響きを聴き取り、それらの生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 音を合わせて演奏することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

06070110\_001

【教材名】八木節 (器楽) (P. 64～P. 67)

【準備等】 範奏CD, リコーダー, 鍵盤ハーモニカ, グロッケン, 木琴, あたりがね (カウベル), 和太鼓 (樽太鼓・締め太鼓なければ小太鼓), 大太鼓, シンセサイザーなど, 録音機器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 曲の特徴を生かして「八木節」を演奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 範奏CDを聴き、学習課題をつかむ。</li> <li>★ 学習してきたことを生かして演奏しよう</li> </ul> <p>○ 楽譜の見方を確認する。</p> <p>○ パートを決めて練習をする。</p> <p>○ 拍の流れを意識して、合奏の練習をする。</p> <p>○ 表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 速さ ・ 強弱 ・ フレーズ</li> </ul> <p>○ 自分たちのイメージに合った合奏をして、題材のまとめとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 範奏CDを聴きながらテンポのよい曲の感じや変化する曲想をつかませる。</li> <li>・ 民謡「八木節」を器楽曲にアレンジした曲であることを伝える。</li> <li>【資料】八木節は群馬、栃木、埼玉3県にまたがる民謡。日光例幣使道の宿場街として栄えた八木宿（栃木県足利市福居町）が発祥の地の一つとされるが、起源については諸説がある。樽を叩きながら歌う盆踊歌である。</li> <li>・ 他学級や他学年に聴いてもらう予定ならば、そのことを前もって伝えておくことより意欲的に活動できる。また、活動の見通しをもたせるとよい。</li> <li>・ 楽譜1と楽譜2の説明やリコーダー1と2、鍵盤楽器1と2の旋律について確認をする。</li> <li>・ 演奏の順番を確認する。</li> <li>・ 学級の児童数等の実態に合わせて各パートの人数を決める。また、旋律では主旋律（リコーダー1と鍵盤1）のみ扱ってもよい。</li> <li>・ 16分音符を含んだリズムが多く使われているが、感覚的に捉えさせる。</li> <li>・ 楽譜2の太鼓パートは指揮的な役割も担うので、正確に打たせる。</li> <li>・ 低音、あたりがね、太鼓パートには主旋律を録音したものを活用させたり、演奏できるようになった主旋律パートの児童と一緒に練習させたりするとよい。</li> <li>・ 音楽の縦と横の関係を意識して、リズムがそろうようにさせる。</li> <li>・ 主旋律がリコーダーパートと鍵盤楽器パートに移り変わることを意識して演奏させる。</li> <li>・ 音がそろわない部分を取り出して練習するとよい。</li> <li>【共通事項】リズム 拍 音の重なり</li> <li>【評】曲想と声部の役割など音楽の構造とを関わらせながら演奏する活動を通して「知識」を評価する。</li> <li>【評】音を合わせて演奏する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>・ 自分たちのイメージに合った演奏するために表現の工夫をさせる。</li> <li>・ 聴き役をつくり、自分たちのイメージに合った演奏になっているか確認しながら練習させる。</li> <li>【評】声部同士の関わり合いや全体の響きを聴き取り、それらの生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 学習発表会等で演奏をしたり、他学年や他学級に聴いてもらったりして、感想や意見をもらうことで満足感をもたせるとよい。</li> <li>・ 聴いてもらう相手がいない場合は、自分たちの演奏を録音し、思いや意図に合った演奏に</li> </ul>

なっているか振り返らせるとよい。  
【評】各声部の音や全体の響きを聴いて、音を  
合わせて演奏する活動を通して「技能」を評  
価する。

【 備 考 】